

# Visibility, Belonging and Identity

—見えること、いること、存在すること—

映画「エミリーとブレーキー」上映&トーク + ミニLIVE

## 2人の女性の物語を通じて探る、「音楽」の力——。

シンガーソングライターで映像作家の三浦アークさんにとって、「音楽」は自分を表現する一つのツールでした。社会への違和感、自身の葛藤や孤独、飾らないそのままの想いを詩に綴った彼女の声は、聴くものの心を柔らかく揺さぶり、まっすぐに響かせる力を持っています。また、三浦さんが19歳の時に自主制作した短編映画『エミリーとブレーキー』においても「音楽」は居場所と自己表現を表す大事なテーマになっています。

そして、歌手の高橋エミさんは、戦後日本の人種差別を真正面から描いた映画『キクとイサム』（今井正監督/1959年）で主人公のキクを演じ、その後日本の歌謡界で歌い続けてきました。

彼女たちにとって「音楽」とは何か。世代を超えて、語り、歌で繋がる一夜限りのコラボレーションです。

## 『エミリーとブレーキー』あらすじ

大学生のエミリー。真面目な性格で勉強熱心だが、気の合う友達を見つけるのに苦しんでいる。ある日、講義の後、個人番号順で振り分けられた学生二人とグループプロジェクトの打ち合わせをする。途中からほかの学生二人は身内の話になり、エミリーはそれに入れず孤独を感じる。エミリーは都合があるからと言いつつその場を発つ。外で気持ちを整えていたところ、同じ授業を取っているブレーキーから声をかけられる。会話を経て、エミリーはブレーキーのバイト先のカフェまでついていく。その日カフェでは、数年前に亡くなった写真家の展示が行われていた。エミリーが、その展示で出会った一枚の写真とは…？

監督：三浦アーク Directed by Ark Miura / 2022年 / 20分 (min.) / 日本語・英語 (日本語・英語字幕付) Japanese and English (with Japanese and English Subtitles)



詳細・申込は  
こちら▼



## 高橋エミ Emi Takahashi

1947年、東京都に生まれる。1960年、主演した映画『キクとイサム』でブルーリボン賞・演技特別賞受賞。1976年、東芝EMIよりLPデビュー『旅立ちの詩』発売。1995年、三一書房より『戦争の落とし子ララバイ』発売。2001年、吉田ルイ子写真集『華かな女たち：beautiful age』30名に登場。その他1999年より毎年コンサートを実施し、新聞、テレビ、ラジオ等各分野にて出演・掲載をされてきた。英語は苦手、根っからの下町っ子。ミックスルーツであるが故の肌の違いを理由にいじめを受けた子供時代。逆境の中でも常に明るく、強く生きようと心がけてきた。

## 三浦アーク Ark Miura

2003年、東京都生まれ。アフリカンユースミートアップ代表として、アフリカにルーツを持つ中高生や若者を対象にイベントを学生・社会人メンバーと共に企画・運営してきた。共同監督作品『Ark & Maya: All Mixed Up』は東京ドキュメンタリー映画祭2021で特別上映された。高校卒業後、ギャップ・イヤーズを取り、仲間と自主制作映画『エミリーとブレーキー』を制作し、東京外国語大学のTUFS Cinemaで上映された。



2024年12月6日(金) 19:15 - 20:45

会場 ● 早稲田奉仕園スコットホール 参加費 ● 一般 1500円 学生 500円 (当日現金)

[開場 18:45]

★入場時スロープが必要な方、UDトークが必要な方はお知らせください。その他、不安や困りごとがある場合お気軽にお問い合わせください。